

(要旨)

日本におけるイスラーム ―その歴史と布教、在日団体など

イスラミック・センター・ジャパン
館長、DR.サーリハ・サマライ

イスラームは、東方諸国において中国やフィリピンまで流布したが、日本への伝達は（鎖国により）遥かに遅れて19世紀末となり、オスマン・トルコと日本の交流から始まった。スルタン・アブドルハミードは1890年に日本への友好使節団を派遣し、オスマン・パシャを指揮官とする乗員600名からなる軍艦“エルトグレル号”を遣わした。一行は日本天皇との会見もして初期の任務を果たし、帰路についた。しかし、同艦は日本を離れる前に和歌山県の沖合いで9月16日、暴風に遭遇し難破し、乗員550名の人命を失った。遭難者は同地で手厚く葬られて、生存者は日本船でイスタンブールへ送還されることになった。この事件に関わった若手の新聞記者、野田由太郎は遭難者の家族のために義捐金を集め、イスタンブールまで赴きそれを届けた。この時に英国リヴァプール出身のアブドゥラー・ウィリアムという英国人ムスリムの下でイスラームへ改宗した。これが最初の日本人ムスリムと云われる。その二年後に同じ目的でイスタンブールを訪問した山田寅二郎が、その地で改宗して、ハリールというイスラーム名を貰い、第二番目の改宗者となった。第三番目は1900年にボンベイで改宗したアハマド・有賀文八郎である。

日本人で最初のマッカ巡礼者（ハッジ）はウマル・山岡光太郎で1909年のことである。同年ロシアから来て、日本人に感化を与えたタタル人の導師、アブドルラシード・イブラヒームと一緒に巡礼を行った。

日本で最初に建設されたイスラーム施設は19世紀末から住んだインド人による神戸モスクであり、1935年のことである。次いで20世紀初めに共産革命から逃れ、日本に来たカザン出身のタタル・トルコ人たちにより1938年に、東京モスクが建設された。その新築記念式典には在英サウジアラビア大使であった故ハーフィズ・ワハバ、イエメンよりサイフルイスラーム、エジプトからマハムード・ファウジー諸氏の出席をみた。

第二次世界大戦では日本が多くのアジア諸国を占領した。その各地、中国、インドネシア、マライシアなどにおいて日本人の一部がイスラームに帰依した。戦後、これらの日本人ムスリムが帰還して日本ムスリム協会を結成したのが、1953年のことであった。

1956年から60年にかけて4回にわたりパキスタン・タブリーグの伝道があり、この呼びかけに応じて日本人が改宗し、その中にはアブドルカリム・斎藤積平、ハーリド・木場公男の諸氏がいる。

1961年からは、日本に留学していたムスリム学生たちが、インドネシア、パキスタン、トルコ、アラブ、日本人などからなるムスリム学生協会を結成して、日本ムスリム協会と協力しながら、タブリーグの来訪が途絶えた後に、イスラーム伝道の活動を続けた。60年代末にはパキスタンの導師、故サイド・

ジャミールの来日があり、70年代末にはトルコ人導師、ネアマトラーの来訪があった。

70年代初めに故ファイサル国王は、筆者を含めた異なった国籍の元留学生たちを派遣して、日本で伝道を行うイスラミック・センターが設立された。センターはイスラーム関連の本と雑誌の出版を行うと共に、諸団体との協議会を設置した。センターは、ラービタ（世界イスラーム連盟）の協力を得て1977年に中央大学と共催でイスラーム法会議を開催し300名余の法学関係者が出席した。イマーム・ムハンマド・ビン・サウード大学は80年代初頭に本学院を設立して、日本人子弟のためにアラブ、イスラーム文化の紹介につとめ、成果を上げている。

また、センターは2000年5月にジェッダのイスラーム会議機構の協力を得て、日本とイスラーム世界の関係に関するシンポジウムを開催して、関係各国から70名の代表が出席し、日本の多くの学者、来賓、政府関係者の臨席を得た。

80年代から現在に至るまで、日本におけるイスラームは新たな発展をみた。それは多くのパキスタン、バングラデッシュ、インドネシア、トルコ、スリランカから、また少数のアラブ人、ムスリムの流入であり、この結果多くの日本人女性が改宗後に結婚し、ムスリム子弟が増加したことである。また、これに伴い礼拝所やムスリム料理店が建てられた。

ごく最近になり、オスマン様式の見事な東京モスクが、2000年に再建されて、日本人のための新たなイスラームの拠所となっている。さらに、アブドルアジーズ・ビン・ファハド殿下の寄贈による、八王子モスクの新築があり、パキスタン人による海老名の礼拝所の新設があった。

日本のイスラームの現況。

1、日本人ムスリム

- 1) ムスリム協会が東京にあり、その他京都、大阪、北海道に支部がある。
- 2) ムスリム留学生と一般居住者からなる任意団体が全国に存在する。
- 3) 社会各層（大学教授、学生、職業人）において男女の個人がいる。

2、ムスリム居住者

現在日本に在住するムスリムの殆どが、非日本人の居住者である。

それでは日本人のムスリムは何人といえるであろうか。正確な数は不明であるが、多くの日本人が入信したことは、イスラーム団体の数を見ても明らかである。また、毎年イスラーム各国を訪れる日本人観光者の中から入信者が見られ、それは欧米にても見られる。よって凡その日本人入信者は、何万人かに上ると思われる。また、ムスリム居住者は30万人以上に上るのは確かである。

3. イスラーム諸国からの留学生

インドネシア、マライシア、パキスタン、インド他から何千人かが全国に分散している。

4. イスラーム諸国からの研修生、ビジネスマン、商人、観光客。

第二世代の問題

ムスリム第二世代は、現在多くの問題点を抱えている。特にイスラーム教育の浸透や徹底を図るには、イスラーム教育を与える必要がある。

イスラミック・センターは現在、礼拝所建設と同様に、その問題を解決するために学校建設の計画を進めている。

最後に、日本人は道徳、倫理に優れた国民であり、イスラームとムスリムに対して敬意を払っており、イスラームにもっとも近い民と云える。この国において、イスラームが将来、繁栄していくことを祈る次第である。（イン・シャ
ー・アッラー ）

—以上—